



友好交流大会の余韻に浸りながら人民大会堂を後にする日中観光文化交流団の参加者ら



日中観光文化交流団の3162人が一堂に会した友好交流大会では、習主席が参加者らに手を振って歓迎の気持ちを表しました

3000人が訪中し人民大会堂で友好交流大会 習近平主席も登壇し民間交流の強化を確認

JATAと全国旅行業協会（ANTA）、日本観光振興協会（日観振）の3団体による日中観光文化交流団の3162人が中国を訪れ、5月23日に北京の人民大会堂で開催された日中友好交流大会（日中観光交流の夕べ）に参加するなど、日中間の観光交流拡大に向けて大きな成果を収めました。同大会では、中国の習近平国家主席が登壇して「民間交流を強化し、両国関係の改善と発展のために条件と環境を整える必要がある」と強調する一方、交流団の名誉団長を務めた二階俊博ANTA会長は「日中関係を支えているのは、時々々の政治情勢に左右されない民間レベルの深い人的関係だ」と指摘しました。

3000人の参加者に直接語った習主席

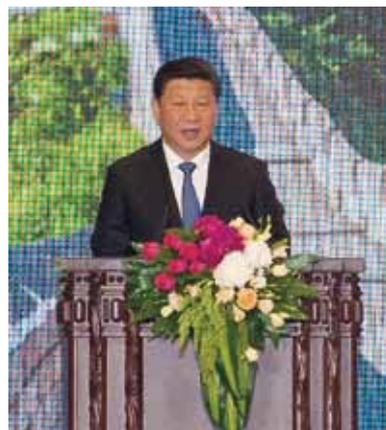
友好交流大会の冒頭で挨拶した習主席は、「友あり遠方より来る、また楽しからずや」という孔子の言葉を引用し、「日本の各界から3000人が遠方より来て、北京の人民大会堂に集まり、中国側と共に中日友好大会を開いたことは、近年の両国民間交流における盛事であり、大きな喜びを感じさせるものだ」と語り、交流団の訪中を歓迎しました。



満面の笑みで二階会長と手を取り合う習主席

習主席は日中両国の関係について、「衣帯水で2000年余りにわたり平和と友好が両国人民の心の主旋律である」という見解を示し、2009年に日本を訪れた際には「両国人民の途切れることのない文化的根源と歴史的つながりを直接感じた」と振り返っています。

また、日中友好事業の意義について、習主席は「歴史が証明しているように、両国と両国人民にとつて有益で、アジアと世界にとつても有益であり、われわれは一層大切にし、心から守り、努力を続けていくべきもの」と指摘。「隣国を選ぶことはできないが、隣国を選ぶことはできない」と語った習主席は、「中日友好の基盤は民間にあり、中日関係の前途は両国人民の手に握られている」と訴え、「両国関係の発展が順調でない時ほど、両国各界の人々が積極的に行動する必要がある、双方が民間交流を強化し、両国関係の改善と発展



習主席「日中双方で民間交流の強化を」

のために条件と環境を整える必要がある」と強調しました。

日中関係を支えるのは深い人的関係

二階会長は、訪中団が習主席の臨席するレセプションに招かれたことに謝意を表明するとともに、「これまで日中関係が良い時も悪い時も、日中間の観光交流や地方交流などに全力で取り組んできた」と語り、「日中関係を支えているのは、時々々の政治に左右されない民間レベルの深い人的関係だ」と指摘しています。3000人を超える今回の訪中団についても、「こうした信念に基づく決断であり、参加者一人一人が自らの意志で参加していることに民間大使としての意義があ

日中友好交流大会 3000人の民間大使が集結



二階会長「ANTAとJATAで訪中日本人旅行者の拡大を」



絹谷団長「観光・文化交流を日中関係の礎に」



御手洗名誉会長「相互理解による信頼関係の構築を」



田川会長「新たな日中間交流の始まりへ」



日観振の山口範雄会長「地域間連携の繋ぎ役に」

さらに、二階会長は青少年交流を推進することの重要性にも言及し、東日本大震災の後に日本から500人の子ども達が海南島に招待されたことを踏まえ、中国からも500人の子ども達を日本

に招待し、「日中友好の実を上げていきたい」という意向を示して、民間交流の推進に全力で取り組んでいく必要性を改めて訴えています。

友好交流大会では、日中観光文化交流団の団長を務めた画家の絹谷幸二氏が、「今回の活動が両国民間交流をより一層拡大させる起爆剤となり、さらには両国関係全体の改善と発展を促進するものとなることを強く希望する」と謳った「日中友好交流大会民間宣言」を読み上げました。

民間宣言は、日中文化観光交流使節団（2000年）や日中国交正常化30周年記念事業（2002年）、日中双向3万人交流事業（2007年）、弘法大師空海を偲ぶ日中交流使節団（2012年）などにもふれ、「これらの交流事業が日中関係の改善と発展に大きく寄与してきた」と評価。「これからもそれぞれの職場、それぞれの地域において、世々代々、子々孫々の日中交流に尽力していくことを、ここに誓うものである」と結んでいます。

特別顧問として交流団に同行した日本経済団体連合会の御手洗富士夫名誉会長は、政治・経済・文化など様々な分野での交流を図った今回の訪中の意義を高く評価。「お互いの国を体験し、歴史や文化を実感することが相互理解を深め、信頼関係に結びついていく」と指摘して、観光交流の拡大に期待を示しました。

また、二階会長は中国国家旅游局の李金早局長との懇談なども踏まえて、「李局長と具体的に様々なことを計画して、日本と交流することが大事だ」と中国側の考えを実践できるようにしていきたい」と語り、ANTAとしてもJATAと共に中国を訪れる日本人旅行者の拡大に力を入れる意向を示すと同時に、日中間における観光交流の発展に強い自信を表明しています。

民間宣言で「日中交流に尽力」を誓う

「という考えを表明しました。」

また、今回の訪中団には、国会開会中の週末という合間を縫って林幹雄・衆議院議員運営委員長など23人の超党派の国会議員団が参加したほか、北海道の高橋はるみ知事、福井県の西川誠知事、奈良県の荒井正吾知事、埼玉県の上田清司知事をはじめ、地方自治体からも多くの関係者が参加したことから、二階会長は「日中間の議員間交流や地方間交流の層の厚さを示すとともに、日中交流に対する日本側の熱い思いを象徴するもの」となったことも強調しています。

民間宣言は、日中文化観光交流使節団（2000年）や日中国交正常化30周年記念事業（2002年）、日中双向3万人交流事業（2007年）、弘法大師空海を偲ぶ日中交流使節団（2012年）などにもふれ、「これらの交流事業が日中関係の改善と発展に大きく寄与してきた」と評価。「これからもそれぞれの職場、それぞれの地域において、世々代々、子々孫々の日中交流に尽力していくことを、ここに誓うものである」と結んでいます。

JATAの田川博己会長は5月24日、北京の日本大使館で行われた日中観光文化交流団の記者会見で、今回の交流団による訪中を「新たな日中間の交流が始まるという記念すべきものにした」と述べ、今後の中国市場における日本からの旅行商品開発に強い意欲を示しました。

田川会長は、世界遺産を中心とする現在の観光パターンに加えて、「地域の生活文化を見聞したり体験したりという最も大切な交流のあり方を重視して、新しい中国をどう見ていくかということを極めながら、都市型観光のDESTINATIONとして成長した上海については、ヨーロッパの都市と同じようなアプローチも試みるなど、国民の皆さんに中国の奥深い魅力を伝えられるよう努力を重ねていきたい」と語っています。

また、二階会長は中国国家旅游局の李金早局長との懇談なども踏まえて、「李局長と具体的に様々なことを計画して、日本と交流することが大事だ」と中国側の考えを実践できるようにしていきたい」と語り、ANTAとしてもJATAと共に中国を訪れる日本人旅行者の拡大に力を入れる意向を示すと同時に、日中間における観光交流の発展に強い自信を表明しています。

国民に伝えたい中国の奥深い魅力

特別顧問として交流団に同行した日本経済団体連合会の御手洗富士夫名誉会長は、政治・経済・文化など様々な分野での交流を図った今回の訪中の意義を高く評価。「お互いの国を体験し、歴史や文化を実感することが相互理解を深め、信頼関係に結びついていく」と指摘して、観光交流の拡大に期待を示しました。

また、二階会長は中国国家旅游局の李金早局長との懇談なども踏まえて、「李局長と具体的に様々なことを計画して、日本と交流することが大事だ」と中国側の考えを実践できるようにしていきたい」と語り、ANTAとしてもJATAと共に中国を訪れる日本人旅行者の拡大に力を入れる意向を示すと同時に、日中間における観光交流の発展に強い自信を表明しています。

日中友好交流大会 シンポジウム&商談会も大盛況



奈良県・荒井知事「地域の独自性を前面に」



福井県・西川知事「ぜひ本場の越前ガニを」



埼玉県・上田知事「東京に近い日本の故郷へ」



北海道・高橋知事「青少年交流の拡大に便宜を」

観光・文化・経済の各分野で交流事業を実施 知事ら登壇し「地方創生観光シンポジウム」も開催

今回の日中観光文化交流団は、昨年11月に上海で開催された太田昭宏国土交通大臣と李金早国家旅游局長との会談で、2015年と2016年の2年間に日中間の交流拡大に向けた取り組みを具体化していくことで合意したのを受け、中国側の全面的な協力により実現したものです。5月22日から24日までの基本日程期間中、北京では観光文化・経済の各分野で、様々な交流事業が実施されました。

5月22日は、日本貿易振興機構（JETRO）の主催による「観光分野における対日投資セミナー」と日本政府観光局（JNTO）の主催による中国旅行社との商談会が開かれたのに続き、JNTOと中国対外文化交流協会の共催による「日中ファッション・観光・文化交流会」も実施されています。5月23日には、中国国家旅游局が「地方創生観光シンポジウム」を主催したほか、JNTOが23日と24日の2日間にわたり一般市民を対象に「ビジットジャパンF.I.T.トラベルフェア」を開催しました。

事前アポイント制による中国旅行社との商談会には日本からJATA会員旅行社など68団体と中国側38団体に参加したほか、多くの北京市民が来場したF.I.T.トラベルフェアにも日本から参加した自治体など45団体ブース出展し、今年5月に単月としては過去最高の40万人が訪日した中国人旅行者のさらなる拡大に向けて、日本の観光魅力をアピールしています。

中国国家旅游局が主催した「地方創生観光シンポジウム」は、日本と中国の間における観光新時代に向けて、地方観光の魅力や課題について知見を共有し、地方創生における観光の役割を考えたうえで、日中間の新



22日の交流会では中国と縁の深いコシノジュンコさんのファッションショーが注目を集め（右上）、商談会（右下）とトラベルフェア（左上）の熱気あふれる雰囲気は訪日需要のさらなる拡大を確信させるものでした。23日と24日には、通常の開門時間前に訪中による故宮への入場も許可されるなど、中国側の歓迎ぶりを印象づけました。記念写真におさまる役員の皆さん（左下）



たな地方間連携の可能性を探りました。日本側からは、北海道の高橋知事、埼玉県の上田知事、福井県の西川知事、奈良県の荒井知事の4氏が登壇し、「外国人観光客の誘致と地方の課題」「観光分野における日中地方連携」というテーマで、中国各省の観光政策担当者らと意見を交わしています。

また、5月23日には、関連行事として在中国日本大使館の主催により大使公邸でレセプション「Yokoso Nippon」も開催され、中国に進出している日本企業がブースを出展して製品の紹介なども行いました。